

## 腎臓内科症例検討会

演題 ①腎臓内科のご紹介  
 ②ご紹介いただいた症例のご報告  
 日時 平成28年10月26日(水)19:30~21:00  
 会場 多摩北部医療センター 2階大会議室  
 演者 多摩北部医療センター 腎臓内科医長 小林 克樹  
 申込 当センターの地域医療連携室へご連絡ください。

## 第7回 たまほく認定看護師主催学習会

演題 知って実践できる感染対策  
 ~患者さん、利用者さん、そして自分を守るために必要な対策とは~  
 日時 平成28年11月4日(金)18:30~19:30  
 会場 多摩北部医療センター 2階大会議室  
 講師 多摩北部医療センター 感染管理認定看護師 鈴木 亜希  
 申込 当センターの地域医療連携室へご連絡ください。



### 紹介・予約のご案内

患者さんのご紹介にあたっては「紹介状(診療情報提供書)」と「受診科のご予約」をお願いいたします。また、紹介状には受診科の明記をお願いいたします。初診時に紹介状が無い場合は、診療費の他に選定療養費として1,338円(税込)が加算されます。

#### 予約センター

**予約専用電話:042-396-3190・3511**

予約受付時間:月~金曜日 9時~19時・土曜日 9時~12時  
 ※お急ぎや受診予約希望や、受診に関してご相談等の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。  
 (受付時間:月~金曜日 9時~17時)

#### 各種検査予約

**代表電話番号:042-396-3811**

##### 放射線

代表番号より下記へご連絡願います。(受付時間:月~金曜日 9時~17時)  
 CT・一般X線検査:内線 2236 MRI検査:内線 2600  
 核医学検査:内線 2140 放射線治療:内線 2073・2169

##### 内視鏡

予約センター又は地域医療連携室へご連絡の上、「内視鏡外来(金曜午後)」のご予約をお願いいたします。なお、内視鏡外来は、紹介予約制とさせていただきます。

《お知らせ》

内視鏡室は、2室から**3室に増室**しました。患者様の安全面にも配慮し、より快適にお使いいただけるように改修しています。ご紹介をお待ちしております。



《地域医療連携ニュース「たまほく」に関するお問合せ》  
 地域医療連携室 042-396-3811 内線 2073



第92号

多摩北部医療センター  
地域医療連携ニュース



### 婦人科がん化学療法の新しい話題

婦人科 部長  
工藤 一弥



日ごろよりたまほく婦人科がん診療にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。多くのがん患者さんをご紹介いただき、科内の化学療法は年間のべ250サイクルに達しました。



上腕ポート(埋込、耐圧型)を採用しました!

肘窩から5cm 中枢側の尺側皮静脈を超音波ガイド下に穿刺して留置します。主要な神経や動脈から遠く、(鎖骨下と違って)血気胸も起こりえず、耐圧型で造影ができるのも利点です。埋込手術では皮下1-1.5cmにある直径8mmの静脈穿刺に技術を要しますが、これまで末梢の点滴が困難で毎回(お互いに)苦労していたのが、ヒューバー針で瞬時にルートを確認でき、漏出中断再穿刺もなく、手も自然に動かせるため、患者さんには大変好評です。



子宮頸がんでもアバスチン投与が可能になりました!

進行・再発子宮頸がんでの生存期間延長(米国GOG240試験)を受けて、本邦でも化学療法(タキサン、白金製剤など)との併用投与が認可されました。安全性は高いのですが、8%に膀胱・膣間の瘻孔が生じた点が卵巣がんと異なります。子宮頸がん特有の進展様式や、骨盤への放射線治療の関与が推定されており、注意が必要です。

今年4月に院内化学療法委員長を拝命しました。益々安全かつ有効な治療に努め、がん患者さんの利益を高めてまいります。





## 低悪性度悪性リンパ腫に対し 1回の投与で効果を認めるゼヴァリン療法

血液内科 医長 本村 小百合



平素より「たまほく」の血液内科診療でお世話になっております。

当科では血液内科専門指導医の常勤5人、非常勤2人の体制で、外来を毎日午前、週2回午後に行い、外来での輸血、化学療法も積極的に行っています。病床もクリーンルームを含む35床を有し様々な疾患に対し安全で標準的な医療を面倒見よく行っています。

今回多摩地域では当院他1カ所しか行っていないゼヴァリン療法についてご紹介します。再発あるいは治療効果がなかった低悪性度非ホジキンリンパ腫(濾胞性リンパ腫など)とマントル細胞リンパ腫に対して「ゼヴァリンによるRI標識抗体療法」を行っています。この治療は放射性同位元素のついた抗体を投与してリンパ腫細胞にダメージを与えるという1回限りの治療であり、治療効果は80%で奏効、64%で完全寛解です。

外来受診で適応を決定した後、10日間の血液内科入院で行います。リンパ腫のタイプや全身状態で適応が決まりますが、従来の治療に比べて治療回数が少なく、血液に対する副作用を除いたその他の副作用は軽度で頻度も少なく、治療効果は同等以上と考えられます。高齢者であっても副作用は成人と同様であり軽度であることが多く、安全に施行できます。化学療法(抗癌剤治療)に比べ通院回数が少なく済む点も利点です。

血球異常やリンパ節腫脹、出血傾向など血液疾患を疑う所見や治療法についての相談などがありましたら、お気軽にご紹介ください。



イットリウム(90Y)イブリゾマブチラマセタン(遺伝子標識抗体)の抗体標識によるリンパ腫治療(2018年)



## 緩和ケア認定看護師の活動について

緩和ケア認定看護師 松本 茉弓

緩和ケアと聞くとどのようなケアをイメージされるでしょうか?かつては、がんの末期の患者さんに対してホスピスのような一部の限られた場所で行われるケアでしたが、今では診断されたその時から必要なケアと認識されるよう変化してきました。

がん患者さんの抱える苦痛には、身体的苦痛の他、心理的・社会的・スピリチュアル的苦痛などがあります。この全人的な苦痛を和らげるために、緩和ケア認定看護師として、多職種と連携しながら、身体症状や気持ちのつらさの緩和、家族へのケア等にあたっています。介入対象は入院患者さんだけでなく、外来における診察の同席、治療選択や療養場所の選択の支援なども行っています。外来と入院、地域との連携を図り、患者さんが安心して治療に向き合い、療養できるよう支援しています。

当院では2011年度から緩和ケア委員会が発足し、活動を開始しました。医師・看護師・薬剤師・リハビリテーション科職員・医療ソーシャルワーカーが連携して入院患者を対象にチームでのケアを行っています。これからも早期から関わることで、患者さんの生活の質を向上させ、その人らしく過ごせるようサポートしてまいります。今後ともよろしくお願ひ致します。



## 抗酸菌遺伝子検査のご紹介

検査科 技師長 助川 久美子

結核患者数は減少傾向にありますが、年間約2,100人の方が命を落としています。また学校での集団感染が問題になるなど、結核対策は国を挙げての課題となっており、治療および感染予防の観点から迅速かつ高感度な検査が求められています。今回は、平成28年2月に導入しました抗酸菌を目的とした自動遺伝子検査装置をご紹介します。

《測定方法》

TRC法を用いた最新の装置です。TRC法とは、1本鎖であるRNAを複写増幅するため、一定温度の1ステップで複写増幅の工程を行うことができる“転写逆転写協奏法(TRC反応: Transcription-Reverse transcription Concerted reaction)”です。TRCReady®-80は、このTRC法と標的核酸に特異的に相補結合することで傾向増幅するINAFプローブ(Intercalation Activating Fluorescence probe)を組み合わせてRNAを増幅・リアルタイム検出します。



《抗酸菌検査の工程》

### 前処理(40分)

- NALC-NaOH処理(検体を集菌法用の塗抹標本作成や培養、TRC検査に適した状態にする処理)

### 溶菌工程(10分)

- 溶菌試薬と合わせた前処理で得たサンプルを80℃で熱処理し、菌体から核酸を取り出す。
- 熱処理後遠心した上清をTRCReady®-80にかける。

### 核酸精製・RNA増幅

- 結核菌群 rRNAを検出できるMTBとM. avium rRNA及びM. intracellulare rRNAを検出できるMACの2種類のキットを用いる。

《院内採用で迅速な結果報告が可能に》

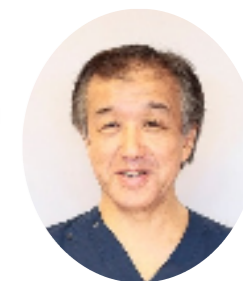
1月まで外部委託していた遺伝子検査はPCR法(polymerase chain reaction法)で、目的菌のDNAを抽出する方法でした。2本鎖であるDNAを切り離し複写するのに高温と低温の2ステップを繰り返すため、核酸増幅に数時間を要します。検体搬送等の時間的ロスもあるため検査結果まで最短3日かかりました。

TRC法にて院内で検査を行う事で最短で検体受付当日に結果が出るようになりました。塗抹検査陽性の場合、TRC法で結核菌群か否かの判定を最短2時間程度で報告するなど早期診断に貢献していきたいと考えております。



## 地域医療連携室長より

副院長 松本 潤



災害は忘れたころにやってくる、と言われます。しかし東日本大震災以降、台風や洪水など忘れる暇なく日本列島は災害に見舞われています。つい最近の大雨でなんと当院駐車場も水没し、来院の皆様にも車退避などのご迷惑をかけてしまいました。

9月は防災の月です。私は都の災害中核拠点病院である都立広尾病院の災害対応訓練を見学し、災害に対する備えとして防災訓練の大切さを実感してきました。実際の災害時に物資・人員がどの程度手当てでき、傷病者対応がどれくらい必要になるか、想定外のこともあるでしょう。しかしシミュレーションしておくことはいざという時の心構えとして必須です。当院では11月に災害訓練を予定しております。災害時は病院だけでなく、医師会の先生方や行政と一体となって対応しなければなりません。通常診療とは異なりますが災害時の連携もすすめ、行政を巻き込んで医師会の先生方との災害時体制の整備を進めたいと思っています。